

座談会

21世紀をになう感性

これからの芸術表現・芸術教育をになう4人の学生が、アーティストとして、また日本を代表する国際人として活躍する平山学長に、芸大の現状と未来を問う。



先端技術と芸術教育の関わり方

平山（郁夫） どうぞリラックスして、自由にお話ください。

中野（公吾） では先鋒でやらせていただきます。いまはグラフィックデザインにかぎらず、アート全般にコンピュータがだいぶん入ってきていますが、芸大のコンピュータへの取り組みは一步出遅れた感じがしています。もっとも、最近は大んだん充実してきているようですけれど、今後のヴィジョンについて伺いたいと思います。

平山 ものをつくる人は、まずものをつくる原理、原則を学ぶ必要があると思うんです。美とは何か、人類が美をどういうふうに見出し、芸術が始まったか、ラスコーの壁画が描かれた時代は芸術の概念など存在していませんでした。でも、生きることに必死だった時代に人類はあれだけのものをつくっていたわけですね。先人が時代の流れとともにどういうものをつくってきたかを勉強し、現在どうであるのか、そして将来どこへ行くのかということを考えていくわけです。ですから、まず基礎をしっかり勉強して、それから美の価値観を自分でつくるのが、ものをつくる原点、アイデンティティになるわけです。

いま皆さんは大学院ですから、基礎はひと通り勉強されて応用段階に入ったと思うんです。表現手段としてコンピュータを使う人もいれば、手だけでつくる人もいるでしょう。お互いに影響しあいながら自分の芸術をつくっていただきたいのです。

伝統を学びながら現代を見つめる

金（兌赫） いま伝統というお話がありましたが、伝統というものは時代によっても捉え方が違ってくると思いますので、現時点では伝統をどう捉えるべきなのか先生のお考えをお聞きしたいのですが。

平山 伝統というものは、過去の膨大な積み重ねですね。日本の伝統、韓国の伝統と、

言われますが、人類全体の足跡を考えてみると、それぞれの国の伝統は複雑にからみあい、つながっているのです。

たとえば日本人が日本文化は独特だと思っ
ていても、縄文土器や弥生土器はすべて日本
列島の中でつくりだされたのではなく、朝鮮
半島や中国、あるいはベールینگ海をのほうを
回り大陸から伝えられた技術もありました。
やがて大和政権の時代になり、四、五世紀に
国家が誕生しましたが、ローカルな価値観だ
けでは国は統一できませんから、六世紀中頃
に当時の文化先進国である中国大陸や朝鮮半
島から仏教文化というかたちで取り入れたわ
けです。しかし、大陸の文化に飲みこまれる
のではなく、日本に由来あつた価値観や宗教
神道と連動して神仏混交し、日本民族に
合うかたちで受けとめた。いろいろな影響を
受けながら歴史をつくっていったのです。

この仏教も美術として見ると、インドから
中央アジアを通じて中国本土にきたわけだ
が、インドにもヘレニズム文化やササン朝ペ
ルシャとか、ギリシャ、ローマの文化の影響
が入っているわけです。つまり、仏教文化に
はユーラシアの文化がいろいろな形になって流
れ込んでいる。ですから、伝統を探ると、全
人類が築き上げたということがわかります。
伝統を捉えるとは、歴史をどこまで辿るか
ということもあるわけです。

近代に視点を移しますと、この美術学校
ができたのは約百年前ですが、アメリカや
ヨーロッパの進んだ近代手法をかりて日本文
化の近代化を図ったわけです。そういうふう
に、新しいものをつねに取り入れながら、で
も日本独自と言える文化は続いているわけだ
すね。断絶しないで、どの時代でもつながっ
ている。

伝統のなかにあるさまざまな層を勉強して、
いまの時代が求めるものと、将来どんな方向
に行くのかを考えながら、自分の夢を実現さ
せるように布石していくと点が線になって自
分の主張ができてくる。いま皆さんは試行錯

誤しながら、そのベースをつくっています。迷
うこともあるでしょうが、目標があれば少々
迷っても無駄にならず、幅になるはずですよ。

(J・S)ギレスピー 邦楽をやるためには、
伝統と言いますか、ある程度の文化的あるいは
文学的な教養が必要となるとよく言われま
す。でも、現在の日本人は日本文化にあまり
目を向けず、邦楽の世界を活かすための最低
限の知識を身につけていない役者も増えてい
る状態です。これからも邦楽の豊かな世界が
続いていくためには、芸大でどのように崩
れかけた日本人の文化的な意識を改めるべき
でしょうか。

平山 これは、一番大切な問題を突きつづら
れました。たしかに邦楽などは大変難しい言
葉 語る言葉とは違う言葉で、非常に文学
的に書かれています。しかも、日本的な感情
が要求されますが、現代の日本人の生活では
そうした情感は失われつつある。

ドナルド・キーンという日本文学がご専門
の先生がいますね。私も対談したことがあり
ますけれども、あの方が第二次大戦後間もな
い頃アメリカへ浄瑠璃を持っていったんです
よ。日本人たちは、あんなものを持ってい
つてもだめだと大反対したのが、キーン先生
は「日本人の叙情性、庶民感情を大変みこと
に表わしたものだ。しかも庶民の恋愛や感情
に関することを非常にきめ細かく表現し、様
式化しているところが素晴らしい」と評価し
てアメリカに持っていかれた。日本人でさえ
よくわからないのを、キーン先生が解説した
ら、アメリカの人は一番悲しいところへ来る
と涙を流した。感情を理解できたんです。

そういうふうには、違う文化を持つ先進国に
認められて、ようやく自国の文化を認めると
ころが日本人にはあります。自分たちだけの
評価では粗末にする、だから新しいことがど
んどんできるという面もありますけど、一度
失ったものはだめになりますから、もつとしつ
かりしないと、邦楽のお師匠さんはアメリカ
の人で、日本人がアメリカの人に習うという

ことになりかねない(笑)。芸術は国境がない
のですから、それでもいいんですけれど。

やはり伝統の素晴らしさは気づいたときは
大事にするようにしたいと思えますね。芸大
でも邦楽科が一生懸命やっています。アメリ
カやヨーロッパの人たちが、日本文化に興味
を持って一生懸命勉強してくださるというの
は、それだけ日本の文化が広がるということ
で、大変ありがたいと思えますが、本家であ
る日本がもうちょっと頑張らないと申しわけ
ないですよ。

芸術と社会の接点をいかにして作るか

小坂(咲子) いま、日本から流れ出てしま
うということについてのお話がありました。ま
逆に外から取り入れたいものについてお話し
したいと思えます。何回か海外に出て感じた
ことですが、あちらには劇場があつて経営者
がいて、演奏家たちがいて、聴衆がついてま
わる。音楽のためのピラミッド型の社会層が
あるわけです。音楽を発信するだけでなく、
聞き手まで含めた社会組織について考える人
が出てきて、日本にも音楽を中心とした社会
が定着したら、どんなに音楽は先行き幸せだ
らうと思うんです。今度新しい学科ができ
たと聞きまして、音楽環境創造学科ですか。せ
ひ、劇場の経営面を長期で見通せる人材の育
成、それも文学ですか、美術、音楽に理解
がある方を育成していただけたらと思います。

平山 ヨーロッパの場合、宮廷やパトロン、
あるいは社会的な力や経済力を持つ人が、多
少お金がかかるのと皆の共有財産として芸術
を守って来たんですけれども、日本の場合は
將軍家や大名が庇護する以外には、そういう
伝統がありませんね。ひところ、文化に理
解のある企業がメセナ活動として経済的に支
援しましたが、景気の良し悪しにかかわらず
本心に保護しつづつと育成していく力がまだ
整備されていません。いま文化庁で芸術文化
振興基金をつくつて支援したり、昨年

月に芸術一般に支援する文化芸術振興基本法
が制定されましたが、芸術は政府や国が支援
して組織的に行なわないと難しいと思えます。

たとえばビルをつくるときに、建物の何パ
ーセントかは美術的な要素を必ず入れる国が
あります。壁画や彫刻、あるいはステンドグ
ラス、モザイクと、その場限りではなく美術
として付加価値のあるものを義務化させる。
たとえばイタリアのフィレンツェでは王侯貴族
がそういうことを実践しまして、あつちにはミ
ケランジェロ、こつちにはレオナルド・ダ・ビ
ンチというふうには、世界の宝である壁画や彫
刻が建物の中に残っていますよ。それが本
当の文化国家だと思えます。

中野 国の政策として芸術を振興していくと
いう方向性は素晴らしいと思えます。ただ、
一般の人々が芸術に関心を持たなければ美術
館には人は来ないと思つんです。よくヨーロ
ッパに行かれる先生からお聞きする訳ですが、
たとえば音楽の演奏会をやると、どんな小さ
な演奏会でも必ず反応があつて、新聞などに
褒められるか褒められないかは別として

も 何か書いてくれるそうです。でも日本
では何の反応もない、それがいちばんつらい
というふうなことをお聞きしたことがあります。
平山 日本も江戸時代には、「ぜいたくしては
いけない」なんていうお触れが出ますと、着
物の裏に非常に凝つた材質やデザインをした
目に見えないところに凝つた元禄時代は、非
常に庶民的な芸術のセンスがあつたわけだ
すね。日本人の審美眼がだんだん失われてし
まったのは、教育の問題という一面もあると
思います。情操教育は小学校、中学校から必
要なのに、音楽や美術の時間は進学に役に立
たないといつので少しずつカットしてしまつ
た。自然が美しいと思つ心、音楽を聞いて素晴
しいと感じる心をおろそかにして功利的なこ
とはかり追い求めていくと、どこかでバランス
が崩れてきます。真善美という言葉がありま
すが、美しいものは非常に合理的なんですよ。
真善美のバランスが崩れると、世の中おかし

くなるわけだ。

ですから、たとえば子ども部屋なども、家具や敷物などの色の置き方をくふうしてレイアウトすれば幼い頃から美意識が磨かれます。小学校、中学校、あるいは家庭でセンスを磨く雰囲気を持っていくようにすると、自然に審美眼ができてくると思うんです。

町づくりもそうです。環境や都市計画がきちんとしていると気持ちもいいですし、わが町わが村に誇りを持てますよね。社会全体の美意識を高めるよう、まず芸大がお手本になって社会との交流を持たなくてはいいけませんね。

多様な世界での交流のなかから学ぶこと

司会 金さんは韓国から芸大に来られました。金 韓国は、土地の大きさと見れば狭い国です。現実的な話なんですけど、油絵をたくさん描いてもなかなか売れないだろうし、かといって置く場所もない。それなら、版画を勉強したほうがいいんじゃないかと思いついたんです。版画なら自分が死ぬまで絵をかくても置く場所は確保できるだろうと(笑)。むしろ、東洋人には版画は合うかもしれない気がしています。社会版画画集』という本を見たのですが、日本の木版画は私にかなりインスピレーションを与えてくれたんです。

日本はあまり芸術とか文化にお金を注いでないという話を日本の方からよく聞きますが、私から見ればかなり投資をしているように思えます。日本と韓国の経済の差もあると思いますが、正直言えばこちらやましとこのころもありません。でも、日本の方は不満ばかり言っている。確かにヨーロッパのように昔から芸術が日常生活と深く関わっていた国と比較すればもの足りないところもあるかもしれないけれど、結構いい環境が整っているんじゃないかなと思うんです。

日本の方は、もっと誇りを持ってもいいのではないのでしょうか。欲を言ったところですぐ

理想が現実になるわけじゃないから、もっとゆったりした気持ちを持ったほうがいいように思いますけれど。

司会 ギレスピーさんにも能楽に最初にご興味を持たれたあたりからお話しいただけますでしょうか。

G もともと昔から古いものが好きでして、大学に入ってから日本の中世文学を専攻するようになったんです。能や狂言の翻訳を書いたりしていたんですが、たまたま京都に留学して能楽堂へ行って、本には書かれていない内面的な部分があるんだなと気が付いたんです。活字ではわからない部分ですね。

そこで、舞台上でしか習えないものを身につけようと思い、茂山先生のもとで狂言のおけいこを始めました。内面的な部分がある程度つかむにはかなり時間がかかるものなので、結局日本で本腰を入れることになりました。いま二年です。

平山 言葉では伝えられない、教えることができないものは、日本にたくさんあるんですよね。能楽や邦楽でよく「間」と言いますけれど、それはいったい何秒間だとストップウォッチで計るつとしたところで数字が出てくるわけがない、その場その場で違いますから。それはセンスであって、言葉で教えられてできるものではない。試行錯誤を繰り返しながら体得するしかないものです。もし誰かが文字でわかりやすく表現したらそれはいいですよ。難しい心理状態を文字で書くことができた、大変いいと思いますけれども。

たとえば、玄奘三蔵という中国のお坊さんがインドにお経を求めに行き、勉強して帰ってきて翻訳しました。精神はサンスクリットのインドの原典なので中国語で直訳し

中野公吾

なかの・こうご
1966年生まれ。東京芸術大学美術学部デザイン科卒業。現在、大学院美術研究科修士課程デザイン専攻2年。マルチ・メディア、インタラクティブデザインを中心に研究中。



金兌赫

キム テ ヒョク
1965年韓国生まれ。中央大学校芸術学部西洋画学科卒業(韓国)。東京芸術大学大学院版画専攻修了。現在、美術研究科博士課程1年。



ては本当の精神は出てこないのです。玄奘三蔵はインドへ行くまでのさまざまな苦労を通じて人生を悟ったり、異文化と接触したりして、人間を深めたわけですね。その結果で翻訳していますから、自分のお経になつてるわけですよ。

同じように日本の伝統も、たとえば英語にでも翻訳してもらつと、また違う伝統が出てくると思います。ギレスピーさんは、孤軍奮闘されていることでしょうか、いろいろなことをすべて新しく経験して。私もいろいろな国に行っているの、よくわかりますよ。

中東のいろいろな国を、わくわくしながら、ひやひやしながら歩くうちに、そこで戦争があるでしょう、中東戦争だのアフガン戦争だの。軍用地帯へ迷い込んでしまい、アラブ兵に鉄砲を突きつけられて尋問されたこともありましたが、ホルドアップしながら、これはやられるかなと、本当に命がけだったんです。こういう経験は、たとえ一日であっても長い一日で、勉強になるわけですよ。外国に行くとも多様な価値観や空間や自然にぶつかります。そうやって国際交流をしながら、いろいろなことを勉強するんです。

忙しく砂漠を走り回っていたとき、こういうこともありました。大きな木があって、朝、東から暑い日が照っているのに西側の日陰に座って、お茶を飲みながらじっとしているおじいさんがいたんです。それで、一日じゅう走り回って夕方帰ってくる、そのおじいさんがやはり木の影にいます。日が傾いて影が反対になりますから、今度は東側に移動して、やはりじっと座っている。ひげを生やしていて哲学者みたいな風貌なんですけど、一日じゅう何もしていないんですね。それで私が「ちよつと絵をか

かせてください」と言ったら、「ああ」と言ってくれたので描きましたけど。無為という題でね、何もなさずという(笑)。

G 国際交流でもう一つ質問があるんですけども、この前能狂言が、ユネスコの世界無形文化財の遺産とされました。邦楽の世界では国際化はかなり進んでいます。邦楽界にしても邦楽界にしても、内側 日本ばかり見てしまっているように思います。そうしたなかで留学生を受け入れてくださることは非常にありがたいことですが、将来日本のさまざまな伝統芸能を世界に広めていく学生に、学校としてどのような教育ができるでしょうか。

平山 ユネスコの世界遺産に指定されたとは言っても、邦楽をいきなり外国へ持っていかると奇異の目で見られてしまうでしょう。ですから、まず邦楽や日本文化についてわかりやすく広報することが大事だと思います。ギレスピーさんの場合は、日本の中世文学を勉強されていたから、能楽の心情を理解する土壌ができていたと思いますが、そういった知識がないところへいきなり持っていかると、初めはなかなかわかってもらえませんが、徐々に知識を広めて理解させるような努力が、交流が必要だと思いますね。

専門が違つ分野から得る斬新な視点

小坂 他学問との交流も積極的に進めたいと思います。たとえば演奏家は身体を動かすわけですから、医学的なこと、骨がどうやって筋肉と結びついて身体が動くのかとか、音が耳に入ると、右脳にどう働きかけるかが演奏する会場の大きさによって緊張の度合いがどう違ってくるのか、などを勉強すると広がるのではないのでしょうか。

平山 一見芸術とは無縁と思われるようなことでも、ぜひ一般教養として学んでおくことは大切ですね。たとえば花がなぜ美しいかということ、生物学的に見ると、花は美しい色や

香りでもちやちよウを呼び寄せて花粉を運んでもらうわけですから、花が美しいことはすなわち生きることだとわかってきます。生物学や自然科学を一般教養として学ぶことで、美をさまざまな視点で考えられるようになる。いざ絵を描くときにも色の分量などで役立つと思います。

逆もありますね。わざとアンバランスな色、破綻するような色を塗らないと、中間色だけで塗ってもおとなしすぎてつまらなくなり、音楽もそうですよね、どこかピークで、くっく破るところがある。これも数学的な、比例配分のバランスがあるわけです。

これも、さきほど言った真善美なんです。私は以前ヒマラヤのエベレストで絵を描きました。がたがたがた震えながら、十二月のクリスマス前後がいちばん空気が澄むと言っているので、二日ほど自力で登山して寝袋で寝ながら、零下二十度のところで絵を描いたんです。体温温度はマイナス二十五度くらいでした。あんなの初めてですよ、もう死ぬかと思うくらいに酷寒の中を登っていきまして、二重の手袋をして帰ってきました。もともと身体はそんなに丈夫じゃないのに、なぜ耐えられたのかというと、これはどうしても描きたいんだという意志があったからできたんです。

絵を描くとき、タクトを振るとき、演奏するときは無心状態ですが、そういうふうに集中しているときが一番、身体は合理的に動いているわけです。絵をかくときに絵の具のまぜぐあいやいろいろな定着剤の分量だとかをいちいち考えているようではだめなんです。絵を描いているときはとにかく夢中で、何をどうしたかわからないで描いているときに、身体も疲れないし調子がいいんです。

そういう心理状態や医学的なこと、幾何学や博物学、文学も、いろいろなことを教養として学んでおくと、集中したときに無意識のうちにはすべてが注ぎ込まれるのではないのでしょうか。無心になって集中すると火事場の馬鹿力のような潜在した能力がわいてきて、そのとき

にプラスアルファのひらめきのようなものが出るのではないのでしょうか。皆さんは自分流にいろいろと勉強していると思いますが、専門が違ふほどはいつとるときがある。他の学部や大学に聞きに行くなど交流のチャンスはあったほうがいいと思います。

中野 学部同士の交流という点では、僕はクラスの代表をやっていたり、芸術祭の実行委員長をやっていたりしたので他学部の学生と交流を持つ機会に恵まれましたけれど、一般の学生同士ではなかなか交流のチャンスがないと思つてますよ。美術と音楽でキャンパスの間に道路があることも象徴されているように、完全に分断してしまっている。でも、校舎が入り組んでもいいんじゃないかと思つてます。音楽学部、美術学部と分かれています、これからの時代はおかしいんじゃないかと。

平山 絵の展覧会に音楽の学生さんを呼んで、絵を見て即興で何か作曲してもらったり、あるいは作曲してもらっているうちに構想が浮かんで絵を描くという場合もあるでしょうね。そういうお互いの交流の場をどんどん見つけていかれたらいいんじゃないでしょうか。遠慮せず、音楽の先生も呼んで絵を批評してもらったらどうですか。専門の先生だと技術的な点が目について木を見て森を見ないところがありますが、専門の違う先生からは全く予想外のことを言われるかもしれませんし、非常に刺激になると思います。

金 二週間ほど前に留学生会館に入りしましたが、留学生同士で展覧会の準備を進めたりして、学生同士の交流はかなりあると思います。いろいろな国の学生さんが集まっているので、いろいろな文化を日本で知ることができるチャンスだと思



ジェシー・スチュアート・ギレスピー
Jesse Stuart Gillespie
1979年アメリカ、ノースカロライナ州生まれ。クレアモント・マックナ大学を日本文学専攻で卒業。現在、大学院音楽研究科修士課程音楽専攻(観世流シテ方)1年。



小坂咲子
こさか さき
東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。作曲を野田暉行、松下功、金子晋一、安部幸明の名教官に、音楽学を船山隆教官に師事。現在、大学院音楽研究科博士課程2年。

ます。

また、わたしは今国際交流会館に住んでいて、とても快適な生活をさせていただいていますけれど、日本のことを学んだり知識などを吸収するだけでなく、こちらからも韓国の文化を日本の方に紹介したい気持ちがあります。国際交流会館や学校では、なかなかそういう機会がなく、もったいない気がします。

平山 日本人と入り乱れて住めば、そういう壁が越えられるということではなく話題になるんですけれどね。いま何人ぐらい、国際交流会館に住んでいますか。

金 三十人強ですね。
平山 アメリカ文化や韓国の文化とか、それぞれの研究領域を超えて何かサークルでも日本の大学院生と一緒に作つたらいかがでしょうか。一般論でもいいですし、自分の専門を超えて話してもおもしろいと思います。同じものを見てどう考えが違うか、発見もかなりあると思えますけれどね。

たとえば、言葉による違いがそうです。ヨーロッパ語圏では最初に主語があって、すぐ動詞が来ますね。きちんとした文法があるわけです。文法は日本にもありますけど、主語がなくなつたり動詞がなくなることもあります。場合によっては直截にものを言うのを避けて悟ってくださいと相手に委ねる言い方もあります。日本語は動詞が最後ですから、そういう文化の相違というのはありますよ。韓国も日本流じゃないですか。

金 同じですね。

制度化を含めた改革が必要

司会 最後に一言、教授陣の評価についてお願いします。

平山 社会的な活動の場があったり

発表する機会をたくさん持っている先生はいいんです。でも、専門分野によっては、そういうチャンスを持たない先生もいますので、実力が表に出てこない場合がある。不公平にならないように、皆に実力を出すチャンスを与えて、活躍していただく。私はずいぶんアメリカやヨーロッパや中東アジアでも展覧会をやりましたが、こういった活動は大学側で経費を負担して、特殊な人しか外国で展覧会をできないということではなく皆が発表の場を広く持つようにはしていけるよう制度化しなくてはだめですね。

金 韓国の場合は、大学に五年とか七年ほど勤めたら、一年間は研究年といって、給料が出ながら休暇をとって好きなことを研究できるんです。でも、そういう日本にはそういうきつとした制度がありませんよ。

中野 日本は、いわゆる偏差値教育で来ていて、未だに世の中のほとんどは偏差値で成り立っていると思つてですけど、唯一それに対抗できるのが芸大じゃないかなと思つてます。政治にしろ経済にしろ、どんなジャンルでもクリエーティブな資質は必要だと思つてます。そして、それは偏差値教育だけでは育ちませんよ。芸大がクリエーティブな資質のモデルを示していけば、社会全般の芸術に対する考え方も変わっていくと思つて日本全体のプラスになっていくと思つてますけれどね。

平山 つねに一流のものに接していただきたいですね。演劇にしても音楽にしても美術にしても、二番手以下は全部捨てて、外国のもので日本のものでとにかく評価の高いものをインプットする。材料もけちらさないで、いいものを使う。一流志向でやってくださいよ。生活は二流でもいいんです、でも、材料とかそういうものは今一流のものを使いこなしてあげないと覚えませんが、その良さを活かすことを覚えませんか。

平山 どうぞ皆さん、頑張つて、大成してください。

(四月二十四日、東京芸術大学学長室)